

オープンサイエンス

その新規性の持つ意味

国立国会図書館長

倉田敬子

オープンサイエンスの定義

● 学術会議

- オープンサイエンスは、オープンアクセスに始まる様々な研究プロセスの公開
- オープンデータに注目が集まる

学術会議『回答 研究DXの推進—特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から—に関する審議 について』2023.12

オープンサイエンスの定義

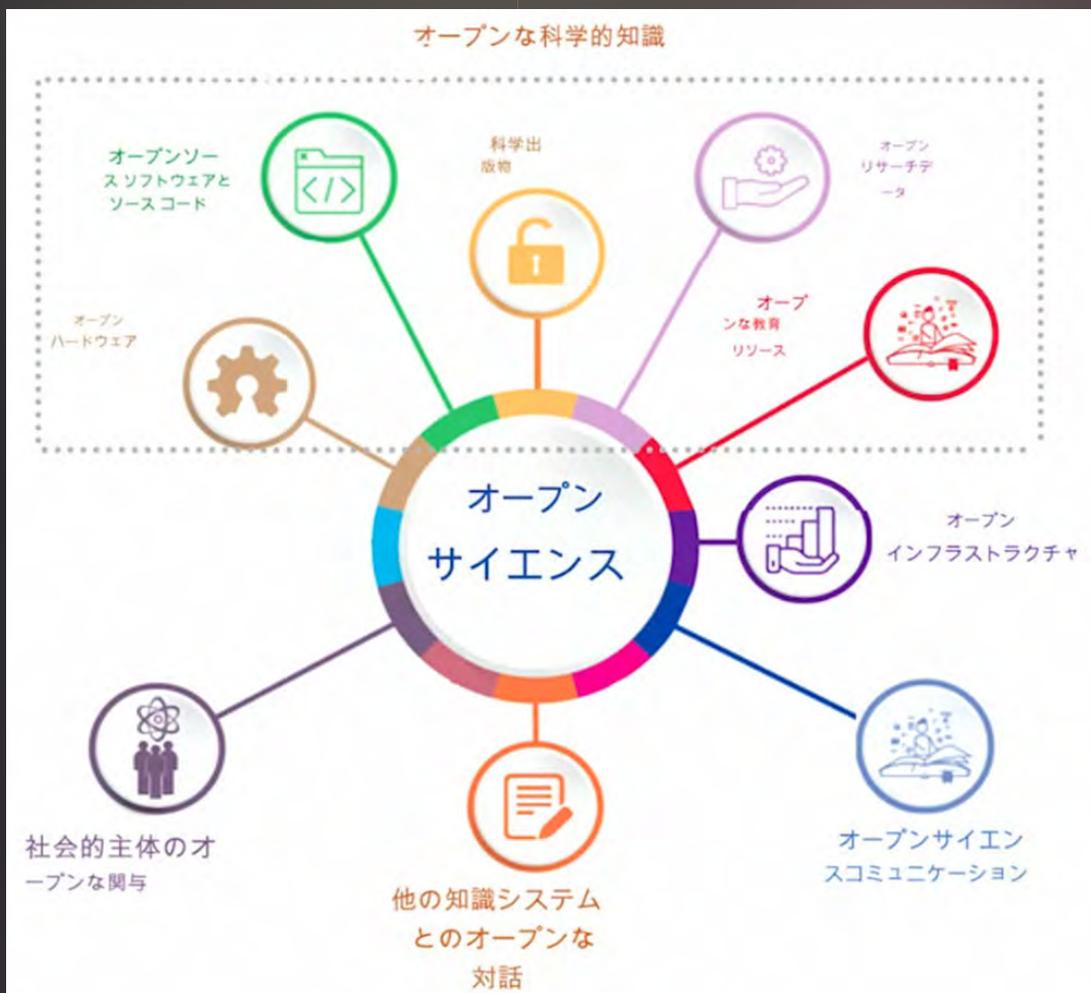
● 系統的レビュー

オープンサイエンスとは、共同ネットワークを通じて共有・発展される透明性が高くアクセス可能な知識である

➤ 「透明性」「アクセス可能性」「共有」「共同開発」の4次元で観測可能

Vicente-Saez, R., & Martinez-Fuentes, C. (2018). Open Science now: A systematic literature review for an integrated definition. *Journal of Business Research*, 88, 428–436.
<https://doi.org/10.1016/j.jbusres.2017.12.043>

UNESCOオープンサイエンス勧告



UNESCO Recommendation on
Open Science(2021)
https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000379949.local_e=en

暫定的定義

- オープンな科学知識
- その知識を生み出すプロセスがオープン
- 社会的変革へのシステム構築

学術コミュニケーションシステム
の社会的閉鎖性を拓く

オープンアクセスとの関係

- オープンアクセスとオープンサイエンス
方向性は同じでもインパクトが違う
- 研究成果コミュニティ内公開は慣習
 - OA論文 ≠ オープンな科学知識
 - OAはオープンサイエンスの前提

オープンサイエンスの意味

●研究プロセスそのものの変容

- 研究成果の表現、形式の変化
- 研究データのエコシステム構築
生成、公開、再利用を支えるインフラ
- 研究評価のあり方の変更
- 研究プロセス全体のオープン化、共有化

国立国会図書館の立場

- 研究プロセスへの直接関与は困難
- 研究者共同体内での新しいインフラの構築に関与できるか？
 - プレプリントや研究データ流通システム
既に別の機関による構想がある
 - 研究データを扱った経験がない

参考にできること

- Open Government Data エコシステム
生データが利用できるだけでなく、その結果
再利用可能な形で還元され、オリジナルより
価値がある状態になる¹⁾
- オープンとは単に「解放」ではなく
再利用と循環にこそ意味がある

1) 沼尻，保奈美；林，隆之．オープンサイエンスによる研究活動への影響：National Forest Inventory データの事例．年次学術大会講演要旨集，36：764-769．2021-10-30．<http://hdl.handle.net/10119/17986>

オープンサイエンスに向けて

- 国立国会図書館が目指す方向
オープンな知識と社会の接点
《UNESCOの図の下部》
- 研究者たちによるオープンな知識を
社会で巡回させるための
新たなエコシステムの構築